

特定非営利活動法人学生支援ハウスようこそ 平成28年度事業報告

1. 学生支援ハウスようこそ1年（2016年3月8日～12月31日）

ようこそ設立準備会（2014年9月～）の議論を経て2016年3月にNPO法人を設立、ハウスのリフォームを進めるとともに3月末より学生を受け入れ、シェアハウスの運営を開始した。入居学生の実際の生活を知ることによって、ソフト面・ハード面での学生支援のあり方を学び、その意義を再確認する一年だった。また、学生支援ハウスの輪が広がるよう、活動報告会の開催、内覧・説明の実施、マスコミ等取材への対応などにも努めた。

1.1 ようこそ1年の出来事

- 3月 8日登記、20日学生ミーティング（ルール作り）、27日内覧会（立教SSC、社協）、30日学生3名入居
- 4月 しかしリフォーム完了せず…「銭湯楽しかったねえ」。9日朝日新聞掲載（反響続々）11日メルマガ1号
- 5月 リフォーム完了！学生に病気続出で休養（疲労、発熱など）、18日読売新聞「顔」欄掲載
- 6月 学生の生活が落ち着きはじめる、25日読売新聞掲載、26日メルマガ2号発行
- 7月 4人目の学生入居、調理ボラの導入、8日毎日新聞掲載、9日活動報告会（星美ホーム講堂、参加80名）
- 8月 4日福祉新聞掲載、9日学生ミーティング（ルールについて）、20日HOMESPRESS掲載、北区ヒアリング
- 9月 11日学生ミーティング（議題は「挨拶、食事、外泊」）、28日東社協『福祉広報』掲載
- 10月 新規宿泊スタッフの参加、防犯カメラ設置、昼食のお弁当作りや夕食作りにチャレンジする学生も。
- 11月 9日住まいの貧困ネット講演、26日北区子ども家庭支援センター講演、インフルエンザ予防接種実施
- 12月 2日立教人権センター講演、3日学生誕生日会、9日都共募助成金贈呈式（NHK放映）、29日大掃除

1.2 各種会議の開催

理事会：7回開催、事務局会議：10回開催、会計会議：随時開催、宿泊スタッフ会議：月に1～2回随時開催

2. ようこそにおける学生支援

2.1 学業とアルバイトの両立とその困難

学生は早朝に外出しアルバイト or 学校へ。帰宅は23時、24時になることも。当初、想定していたような皆で食卓を囲むことは少なく、学生それぞれがハウスアテンダントとともに食事が多い。多忙な生活のため、体調を崩しやすく病気になりやすい状態にある。⇒安心・安全の住まい・食・寄り添いの必要＝学生支援ハウスの意義、ハウスアテンダントの役割の再確認。可能なかぎりアルバイトを減らし給付型奨学金の利用を促す。

2.2 「ともに暮らす場」としての学生シェアハウス

ハウスのルール「きまりとやくそく」を入居学生と作成（2016年3月）。しかし…実行するのはなかなか容易ではなかった。とはいえ、「ありがとう」「おやすみなさい」などの挨拶が自然と出るように。ハウスは食事や語り合いを通じた「安らぎの場」とするとともに、互いに快適に過ごすための「社会性を育む場」でもある。また、他の学生と生活をともにすることで、自分を振り返り客観化するきっかけにも。学生自身が生き方を模索する場。

2.3 学生支援の特徴

若者は「子ども」から「大人」への移行期にあり自分の人生を歩みだす過程にある。そこで様々な冒険に挑戦する。特に学生であることから（就労する若者に比べ）自由度が大きい。支援者は学生の冒険を応援する一方、リスク管理の仕方も伝えたい。しかし一方的に「指導」するだけでは本末転倒。また「家族」ではない者が若者の生活を支援するという、曖昧な立場のジレンマがある。支援者はその葛藤の中で寄り添い続けることの大事さ。